

特集

熊本大学医学部附属病院循環器内科寄附講座の紹介



熊本大学医学部附属病院
循環器内科 医局長
心血管治療先端医療寄附
講座 准教授
掃本 誠治

れてこられました先輩の先生方のご努力があつてのことと思ひ、常に感謝の気持ちで、研究、診療、教育に当たらせて頂いております。

各寄附講座を御紹介致します。

不整脈先端医療寄附講座

平成十九年開設（現在六年目）

教授 山部浩茂、准教授 古山准二郎

心臓電気生理学、循環器病態学を基盤とした学問をもとに、臨床不整脈分野の先端的治療を行い、難治性不整脈治療の先導的役割を担うことを目的に設置されました。本講座の使命である最先端医療研究の臨床医療への応用すなわち、診療を通しての研究教育は循環器内科と連携し、現在、教官二名、大学院生二名の四名で、研究および診療を行っています。臨床においての特徴としては、頻脈性不整脈に対するカテーテルアブレーション治療で、積極的に EnSite3000 三次元心腔内マップングシステムを用いて、平成二十三年度には、上室性および心室性頻拍合計一六七例のカテーテルアブレーションを行い、極めて良好な成績を収めています。また致死的心室性不整脈を伴う重症心不全に対する心臓再同期ペースメーカー治療も積極的に行っています。

心血管治療先端医療寄附講座

平成二十年開設（現在五年目）

客員教授 中村淳（新東京病院副院長）、准教授 掃本誠治（筆者）、助教 永野雅英

冠動脈疾患をはじめとする心血管疾患のカテーテル治療を中心に、難治性冠動脈疾患のみならず難治性心不全を含めた

診断・治療・教育・研究を循環器内科と連携して行っています。冠動脈バイパス術でしか治療困難であった左冠動脈主幹部病変や慢性完全閉塞病変に対して、カテーテル治療を施行し良好な結果を得ています。先進医療から保険診療になりましたエキシマレーザ冠動脈形成術を難治性再狭窄病変に応用し、また冠動脈のみならず重症下肢虚血症例 Critical limb ischemia (CLI) に対してもエキシマレーザ血管形成術を施行しています。大学院内のカテーテル手技、治療に対する教育のみならず、関連病院との連携を深め若手の育成も行っています。

循環器臨床研究先端寄附講座

平成二十一年開設（現在四年目）

准教授 安田修、助教 松原純一

近年重要視されている循環器領域の臨床研究をハイレベルで行い日本に不足していると言われるエビデンスを構築すること、ならびにそのエビデンスを診療および医学部の基礎、臨床教育につなげる目的で設置されました。また、循環器領域疾患の予防と治療に向けた基礎研究も行っています。研究・教育・診療活動は、循環器内科、ならびに生命科学研究部「生体機能薬理学」分野との連携のもと実施しています。

循環器予防医学先端医療寄附講座

平成二十二年開設（現在三年目）

客員准教授 陣内秀昭、准教授 田山信至、助教 田中朋子

心筋梗塞患者の多くは、同時に他の血管疾患を高率に有する動脈硬化を主体とした全身血管病です。本講座ではこれま

で循環器内科に欠けていた心臓リハビリテーションの導入を行って、全身血管病の予防に関する臨床研究を行いエビデンスを構築し、かつそのエビデンスを診療および医学部の基礎、臨床教育につなげることを目的に、循環器内科と共同であったっています。

心不全先端医療寄附講座

平成二十三年開設（現在二年目）

准教授 小島淳、助教 安田久代

心不全患者に対し終夜睡眠ポリグラフィー (PSG : polysomnography) 検査により診断を確定するとともに、重症度、無呼吸のタイプ、睡眠の質等について評価を行っています。またその結果に基づき、従来の心不全薬療法に加えて、CPAP（持続性陽圧療法）やASV（適応補助換気療法）などの陽圧呼吸療法を積極的に追加して治療しています。必要に応じて陽圧呼吸療法を行うことで、心不全に対する治療の有効性を見だし、エビデンスとして確立させることを念頭に置いています。

以上、簡単に各寄附講座を紹介させて頂きました。各講座とも高度の専門性と高いモチベーションを保持し、それぞれの研究、診療、教育が、熊本のみならず日本、いや世界の医学・医療水準を上げるという志で精進しております。

今後とも御指導宜しくお願い申し上げます。